

オオジシギの生態を紹介する 小冊子「おかえりオオジシギ」を 北海道内の小学校に無料配布します。 (ご取材・ご報道のお願い)

(公財)日本野鳥の会(事務局:東京、会長:柳生博 会員・サポーター数4万6千人)は、北海道内各地で繁殖しているオオジシギ(準絶滅危惧種 NT)を子供たちに知ってもらうため、また、オオジシギを通じて、郷土の自然に目を向け、そこに住む生き物たちの素晴らしさを実感していただくために、小冊子「おかえりオオジシギ」を道内の小学校に無料で配布します。

(1) 小冊子「おかえりオオジシギ」の内容について

小学校4年生以上を対象とした内容で、オオジシギとはどんな鳥なのか、日本とオーストラリアを渡る一年の暮らしやオオジシギの探し方などを富士鷹なすび氏のイラストを使って面白おかしく解説してあります。

【仕様】全20ページ(オールカラー) 18×10.5cm中綴じ製本

イラスト:富士鷹なすび氏

構成:オオジシギとは・オオジシギの一年・北海道での暮らし・渡り・数の調査・オオジシギを探してみよう・みんなにできること

(2) 全道の小学校に配布します

この小冊子は、生活協同組合コープさっぽろ、DCMホームック株式会社、日本製紙株式会社、北海道テレビ放送株式会社(HTB)より、ご協賛をいただき制作しました。

各市町村の教育委員会または各小学校を通じて、小学校4年生(一部4~6年生)に配布します。(苫小牧市、釧路市、根室市、鶴居村では、26日より配布を開始します)

ご希望の場合は、教育委員会ないしは小学校単位で、以下まで、「必要部数、送付先の名称・住所・郵便番号・電話番号、担当者様のお名前」をお知らせください。無料でお送りさせていただきます。

なお、この小冊子の事業は、越崎清司(こしざき きよし)様の御遺贈により展開している「オオジシギ保護調査プロジェクト」の一環として行っています。

公益財団法人 日本野鳥の会 普及室 オオジシギ小冊子係
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
FAX : 03-5436-2635 E-mail : nature@wbsj.org
TEL : 03-5436-2622(平日 10:00~17:00) 担当 : 江面 (えづら)、富岡

(3) 苫小牧市立ウトナイ小学校で贈呈式を行います

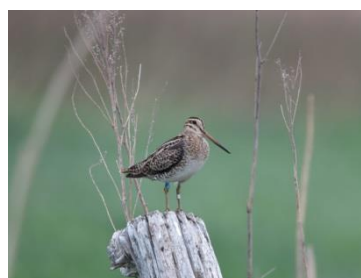
以下のとおり、小冊子「おかえりオオジシギ」の贈呈式を行います。
ご取材のほどよろしくお願いたします。

日時 : 2018年4月26日(木) 10:05~10:15 (中休み時間)

場所 : 苫小牧市立ウトナイ小学校 校長室 (見込み)

対象 : 児童会 8名 (5年生~6年生)

取材のお申し込み、お問い合わせは、事業担当まで原則メールにてお願いたします。連絡先: 田尻浩伸 (メール: tajiri@wbsj.org 携帯電話: 080-5466-1602)



■ 道民には身近? オオジシギとはどんな鳥

オオジシギは、北海道を主な繁殖地とし、本州や九州、またロシア極東の一部でも繁殖が確認されているシギの仲間で、秋から冬にかけて南半球のオーストラリアで越冬します。体長は約30cm、体重は170gほどで、ハトより一回り小さい程度の大きさです。

道内では、畑や牧草地、草原など身近な環境にも生息しているので、オオジシギという名前を知らなくても、春から初夏、草原や湿原の上空でザザザザーッと大きな音を鳴らしながら急降下を繰り返す鳥といえお分かりいただけるかもしれません。しかし、身近な鳥であった彼らも、実はいつの間にか数が減っているといわれています。

環境省版レッドリストでは、本州中部で生息地が減少しているという理由から準絶滅危惧種 (NT) となっています。また、北海道でも十勝地方で行われた調査で、1978~1991年と2001年を比較して個体数が減少していることが指摘されています。さらに、越冬地であるオーストラリアでも越冬数が減少しているとされていますが、近年は調査が行われていないためよくわかりません。また、渡りの主要な中継地も把握されていない中、渡りの際に利用すると考えられる内陸の湿地の減少も懸念されています。

■オオジシギ保護調査プロジェクト

野鳥の種および生息地の保護を通じた生物多様性の保全を掲げる当会は、絶滅危惧種であるシマフクロウ、タンチョウ、カンムリウミスズメ、アカコッコなどの保護事業の実施を通し、森林、湿原、海洋、島嶼という異なる環境の保全を進めています。

2015 年度にウトナイ湖と北海道の自然保護に役立てて欲しいという趣旨でご遺贈があったことから、北海道内に生息する種を対象に新規事業対象種の選定を行いました。

その中で、①世界的に見ても分布域がほぼ北海道のみと非常に狭いこと、②近年個体数の減少が著しく、絶滅危惧度が上がる可能性が高いこと、③草原・原野環境に生息する他の鳥類の保護につながる指標種にもなりうること、④環境選択の幅が狭く、環境変化への柔軟性が低いこと、⑤生息地が開発行為等によって失われやすいこと、⑥ウトナイ湖周辺が非常に重要な生息地であること、などを理由にオオジシギを選定しました。

2016 年から 5 か年計画で進める当プロジェクトは、明らかになっていないことの多いオオジシギの生態について調査を行い、その結果をもちいて普及活動や生息地の保全を進めて行く予定です。

2016 年には、オオジシギに装着した発信機の電波を人工衛星で受信して位置を把握する衛星追跡調査を行い、世界で初めて、オオジシギが北海道苫小牧からニューギニアまでの太平洋上 5000 キロメートル以上を 6 日間、ノンストップで渡ることを明らかにしました。

翌 2017 年には、勇払原野でディスプレイ飛行をしている個体数を数え、過去に行われた調査結果と比較してどの程度減少しているのかを明らかにするための調査を行いました。その結果、ウトナイ湖や弁天沼を含む勇払原野西部で 77 羽が観察され、107 羽が記録された 2001 年と比較して 30 羽、およそ 30%減少していることが明らかになりました。

3 年目となる 2018 年は、道内の当会連携団体（支部）の協力を得て全道で個体数調査を行い、減少著しいと言われる現在の総個体数の推定を試みる予定です。なお、もっとも最近の個体数推定は 1980 年代中頃に行われており、その時点で約 36,000 羽が生息すると見積もられています。

同時に、知られているようで知らない鳥「オオジシギ」を普及するため、小冊子「おかえりオオジシギ」を制作し、オオジシギ（準絶滅危惧種 NT）を子供たちに知ってもらうため、またオオジシギを通じて、郷土の自然に目を向け、そこに住む生き物たちの素晴らしさを実感していただくために、道内の小学校に配布します。

■プロジェクトのきっかけとなったご遺贈

2015 年、長年にわたりウトナイ湖サンクチュアリの活動をご支援くださって

いた越崎清司（こしざき きよし）様より、ウトナイ湖サンクチュアリと北海道の野鳥保護のために使って欲しいという趣旨のご遺贈がありました。日本野鳥の会では、越崎様のご遺志に沿った使途を検討し、道内に生息し現時点で保護が必要な種としてオオジシギを選定して保護プロジェクトを開始することとしました。

<配布先> 苫小牧市政記者クラブ、根室記者クラブ、釧路総合振興局記者クラブ

【事業に関するお問合せ・取材のお申込みは】

公益財団法人 日本野鳥の会

保全プロジェクト推進室 TEL 03-5436-2634/FAX 03-5436-2635

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

担当：田尻（たじり）

ウトナイ湖サンクチュアリ TEL 0144-58-2505/FAX 0144-58-2521

北海道苫小牧市植苗 150-3

※写真の使用について

写真の画像データは提供可能です。使用される場合には、「日本野鳥の会」のクレジットの記載をお願いします。



